

「教職課程年報第6号」の発刊に寄せて

神戸女子大学 学長
波田重熙

今年も「教職課程年報」が発刊される時期となりました。年報には、日頃皆さんがお世話になっている、教職支援センターの教職員や各学科の教職担当の先生方が、教職教育について常々お考えになっていることや皆さんに期待していることについてまとめて下さっています。また、教育実習に参加した先輩たちの実習日誌やセンターの活動記録が収録されています。教員採用試験を目指す皆さんはぜひとも本年報を精読されて、早く具体的な行動計画を立ててください。そして、強い信念を持って夢の実現に向けて邁進して欲しいと願っています。

現在、中央教育審議会は教員養成制度の改革を目指して、教員養成・採用・研修ならびに免許制度を根幹から見直すための検討を進めており、3月にも最終答申が提出される状況です。本学のように、全学科が教職課程を擁する教員養成大学としては、それらの動きを敏感に察知し、いち早く教員の資質能力向上を支援する仕組みを構築できる体制を整備しておく必要があるでしょう。そのために、学部・学科、既存の大学院修士課程全体のあり方についての検討を急ぎます。その中で、「将来構想タスクフォース（答申）」でも提案された教育学科の学部化構想についても議論することになるでしょう。これまで、優秀な卒業生によって培われてきた「教育の神女」という伝統をより確実なものにするためにも、現在そしてこれから神戸女子大学で教職を志す学生さんのためにも、教員養成の充実・改善と真剣に取り組まねばなりません。

昨年、「教職・資格支援センターの機能の明確化と教職指導の体制強化」に取り組みました。教職課程認定大学は、教職課程を置く学部学科が主体的に教職課程に関わり、教学組織とそれを支援する事務組織を整備して、大学全体としての組織的な指導体制を整えること、という中教審答申に応えた改革でした。学園サポートセンター事務部の学園教職支援センター傘下に須磨キャンパス教職支援センターとポートアイランドキャンパス教職支援センターが設置されました。一方、これに対応する教学組織の強化の方は再出発した教職支援センターや教員養成カリキュラム委員会のもとで議論が重ねられた結果、旧来の「教員養成カリキュラム委員会」を廃止・拡充して、「教職課程運営委員会」に改組されました。委員には、新たに教育学科主任、小学校教育コース及び幼児教育コース主任が役職指定の委員として入り、さらに、全学共通教育運営委員会代表、教務委員会代表が加わりました。これまでより一層、学生の皆さんの要望に応えられる教職支援体制の強化に繋がったと確信しています。

これから教職を目指す皆さんには、教師の仕事に対する強い情熱はもとより、教育の専門家としての確かな力量や総合的な人間力を培うことが期待されています。皆さん、大変でしょうが希望の実現に向けてどうかベストを尽くして下さい。教職に関わる教職員は全員、皆さんを常に応援しています。